

<対策のポイント>

本年9月中旬以降に、北海道で発生した赤潮について、**広域モニタリング技術の開発、赤潮発生メカニズムの解明等による発生予察手法の開発**、新たに確認された**赤潮原因プランクトンの水産生物に対する毒性の影響等の調査**を行います。また、**漁業者等によるウニ殻等の除去・処分、岩盤清掃、生残ウニの移植、漁場環境の把握等の漁場再生の活動を支援**します。

<事業目標>

北海道太平洋側の赤潮や漁業被害が発生した地域における**漁場環境の回復**

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 漁場環境改善緊急対策事業

北海道の赤潮等による漁業被害の防止や軽減を図るため、技術開発や調査等を行います。

① 広域モニタリング技術の開発

赤潮原因プランクトンの出現・増殖を早期に捉えるために必要な広域モニタリング技術の開発等を支援します。

② 赤潮の発生メカニズムの解明等による発生予察手法の開発

赤潮発生メカニズムの解明及び発生予察に要する環境要因の調査を行い、発生予察手法の開発を実施します。

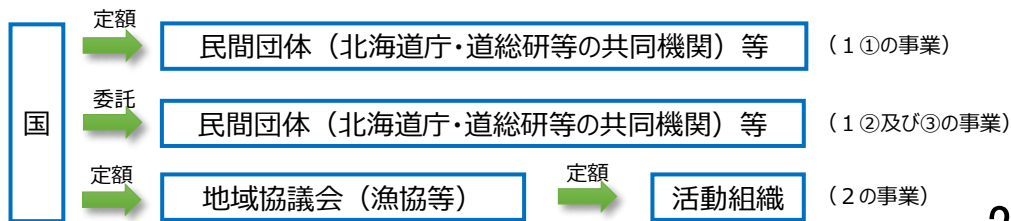
③ 新たな赤潮原因プランクトンの水産生物に対する毒性の影響等の調査

新たに確認された赤潮原因プランクトンの水産生物に対する毒性の影響等の調査を実施します。

2. 環境・生態系保全緊急対策事業

漁場環境の回復を図るため、北海道の赤潮被害地域において、ウニ殻等の除去・処分、岩盤清掃、生残ウニの移植、漁場環境の把握等の活動を支援します。

<事業の流れ>



背景と課題

- 北海道で赤潮が発生。同時期に魚介類の大量へい死が発生。
- 赤潮の発生原因の把握やモニタリング技術の開発などが課題。
- 漁業者等による漁場環境の調査や漁場再生の取組みが必要。



北海道太平洋側で、ウニやサケのへい死等の漁業被害が発生

○広域モニタリング技術の開発

○赤潮の発生メカニズムの解明等による発生予察手法の開発

○新たに確認された赤潮原因プランクトンの水産生物に対する毒性の影響等の調査

○漁業者等によるウニ殻等の除去・処分、岩盤清掃、生残ウニの移植、漁場環境の把握等の活動

水産資源の回復 漁業被害軽減・漁場生産力の再生・漁場環境の回復

【お問い合わせ先】 (1の事業) 水産庁漁場資源課 (03-6744-2382)
(2の事業) 計画課 (03-3501-3082)